



# フェースシールド普及へ



実際に作成したオリジナルのフェースシールドを装着し、機能を確認する高校生

むかわ 加藤さん考案

## 飲食などで使用して

### 高校生ら協力

飲食を伴う場面での使用を想定した、新型コロナウィルス感染症を予防するオリジナルのフェースシールドをむかわ町内で普及させようと、町民有志らでつくる任意団体の取り組みが本格的に始まった。地元高校生や町民有志の協力を得ながら、町内の病院や高齢者施設で使用してもらおうためのフェースシールドの増産を図っていく。

一般的に使用されているフェースシールドは頭の位置で固定するタイプ。使用する際にシールド部分の閉め忘れの可能性があるが、オリジナルのフェースシールドは開けても自重で閉じるのが特徴。町内の自動車製造

がなかった。まだまだ改良の余地があると思う」と振り返った。

任意団体は今後、同好会のほかに町民にも作成に携わってもらおうと、3月下旬に鷗川、穂別の両地区で製作の体験会を開催する予定。加藤さん

は「作った人たちの意見も取り入れながら、改良を加えていきたい」と話している。

## 取り組み本格化

関連企業に務める開発エンジニア加藤浩見さん(60)が考案したもので、A4判のプラスチックシート1枚で1セット作れるため、費用も安価という。PRの皮切りとなった2月下旬、加藤さん自ら鷗川高校を訪問し、ボランティア同好会の会員らに作り方をレクチャー。生徒や教員が細かい手作業に悪戦苦闘しながら、1時間ほどかけてフェースシールドを完成させた。同好会会長の佐々木大空さん(16)は「1年は「型を作る部分はスムーズにいったが、組み立てを理解するまでに時間

## むかわ流STYLE

### 作り手を募集

むかわ町の町民有志らでつくる任意団体「むかわ流STYLE E(スタイル)」は23、24の両日、町民向けに鷗川、穂別それぞれの地区で、飲食中の閉め忘れを防ぐ新しいタイプのフェースシールドを製作する。完成品を町内の病院や高齢者施設で使ってもらおうと考えており、町内で協力してくれる有志の参加を呼び掛けている。

任意団体は、新たに開発したフェースシールドを地域で普及させようと、2月中旬に発足した。フェースシールドはA4プラスチックシート1枚ではさみや定規を使って簡単に作ることができるという。23日は鷗川地区の学習交流センターまなぶ館、24日は穂別町民センターでいずれも午後6時30分から。事前の参加申し込みは不要で、希望者ははさみとカッターを持参して直接会場へ。詳細の問い合わせは、任意団体 携帯電話080(3)260(2)941。